



CSTIPS-News

九州大学 科学技術イノベーション政策教育研究センター ニュースレター

2013 VOL.1

CSTIPS-Newsの創刊に寄せて

CSTIPS センター長
永田 晃也



平成24年4月、九州大学科学技術イノベーション政策教育研究センター(CSTIPS:Center for Science, Technology and Innovation Policy Studies)が発足しました。CSTIPSは、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」の一環である「基盤的研究・人材育成拠点整備事業」に採択された本学の構想を推進するための学内共同教育研究施設です。

この拠点整備事業は、客観的根拠(エビデンス)に基づいて科学技術イノベーション政策を立案・実行できる高度専門人材の育成等を目的としています。長引くデフレ不況の克服、震災からの復興、少子高齢化に向けた社会システムの転換、国家的な情報セキュリティの高度化、地球環境問題への対応—こうした問題を解決していく上で、いま我が国はこれまでにないほど科学技術イノベーションの持続的な創出を必要としており、そのための政策展開が求められています。この要請に、人材育成や基盤的研究の推進という側面から対応していくことが、本事業の使命に他なりません。

本事業には、総合拠点として政策研究大学院大学、領域開拓拠点として九州大学の他、東京大学、一橋大学、大阪大学及び京都大学の構想が採択されています。既に各拠点は、それぞれの特長を活かしたプログラムを推進するとともに、国際シンポジウムの開催などの拠点間共同プログラムにも取り組んでいます。

CSTIPSの事業構想は、基幹総合大学としての九州大学の多様な知的資源をダイナミックに結合した教育プログラムの開発や、東アジア諸国及び国内の地域的なイノベーション・システムにフォーカスした研究プロジェクトの推進を含むものとなっています。

この度CSTIPSは、こうした事業に関する情報を広く発信していくために、「CSTIPS-News」を創刊する運びとなりました。このニュースレターでは、CSTIPSの活動状況とともに、科学技術イノベーション政策に関連する学会等の動向もお伝えしていきます。

このニュースレターが、科学技術イノベーション政策を推進するコミュニティにとって、重要な情報交換の場となることを願っております。



九州大学

平成24年度に開催された主なイベント



CSTIPSは、発足以来1年間に亘って、人材育成プログラムの開発や基盤的研究の推進に取り組む一方、それらに関連する様々なイベントの開催に取り組んできました。ここでは、主なイベントの成果をご紹介します。

拠点間共同プログラムによるサマーキャンプを伊都キャンパスで開催

平成24年8月23日から24日にかけて本学伊都キャンパス・ゲストハウスにて、基盤的研究・人材育成拠点2012年度サマーキャンプが開催されました。

このサマーキャンプは、総合拠点である政策研究大学院大学(GRIPS)が企画し、本学が受け入れ校としてサポートするという形で開催されたものです。会期中は、5拠点6大学(GRIPS、九州大学、東京大学、一橋大学、大阪大学と京都大学で1拠点)の主な事業担当者に、文部科学省、科学技術振興機構(JST)の関係者を含め、45名が参加しました。

1日目は、まず各拠点大学から事業進捗状況が報告され、次いで今後の拠点間連携のあり方に関する検討が行われました。具体的には、拠点大学間での授業科目の共有・交換、教員の共同任用、学生の派遣・受け入れ、インターンシップの実施方法、テキスト等の共同編纂などについて活発な議論が展開されました。2日目は、拠点間共同プログラムとして開催される国際シンポジウムの内容や、次年度サマーキャンプの開催要領が検討されました。2日間の集中的な会議は、拠点間プログラムの具体的な方向性について合意形成を図る場となりました。



研究・技術計画学会第27回年次学術大会の企画セッションに参加

平成24年10月27日、一橋大学(東京・国立キャンパス)にて開催された研究・技術計画学会第27回年次学術大会にて、『科学技術イノベーション政策の科学』のための人材育成」と題する企画セッションが開催され、各拠点大学の事業担当者による事業の紹介と討論が行われました。本学からは永田センター長が登壇し、CSTIPSの紹介に当たりました。

研究・技術計画学会は、科学技術イノベーション政策を対象領域とする我が国随一の学会であることから、本企画セッションは、CSTIPSが関連するリサーチコミュニティに向けて情報発信を行う格好の機会となりました。

国際シンポジウム「科学技術イノベーション政策研究の過去・現在・未来」開催



平成24年12月14日、政策研究大学院大学(東京)の想海樓ホールにて、掲題の国際シンポジウムを開催しました。この国際シンポジウムは、文部科学省の後援を受け、5拠点6大学が共同で主催したものです。当日は、イノベーション研究の世界的な権威であるリチャード・ネルソン教授(コロンビア大学)の基調講演にはじまり、これまで科学技術イノベーション政策はどのような成果をあげ、どのように実際の政策に貢献してきたのかといった論点について、ポー・カム・ウォン教授(シンガポール国立大学)、アンドリュー・スターリング教授(サセックス大学教授)、ロバート・ダブルディ教授(ケンブリッジ大学教授)らの招聘研究者を交えた活発な討論が

展開されました。本学からは永田センター長が第一部「科学技術政策・イノベーション政策研究」に登壇し、政策研究と政策の関連などについて論じました。

本国際シンポジウムの開催に際して、CSTIPSはポー・カム・ウォン教授の招聘を担当したことを機に、東アジアの科学技術イノベーション政策に関する研究ネットワークの形成に向けて動き出しました。

第1回STI政策シンポジウム「科学技術イノベーション政策と地域の持続的な成長」開催

平成25年2月21日、博多都ホテルにおいて掲題のシンポジウムを開催しました。当日は、我が国におけるイノベーション研究の第一人者である後藤晃教授(政策研究大学院大学)の基調講演「イノベーションと大学の役割」にはじまり、パネル討論「企業・地域の持続的発展と科学技術イノベーション政策の役割」では、野田幸之輔氏(株式会社安川電機執行役員・技術開発本部開発研究所 所長)、隈扶三郎氏(株式会社西部技研代表取締役社長)、桑原輝隆氏(文部科学省科学技術政策研究所 所長)、森本廣氏(財団法人九州経済調査協会 理事長)をパネリストとしてお迎えし、企業がイノベーションを推進する上で、大学や国・自治体の政策に期待する役割などについて活発な討論が行われました。



今回のシンポジウムには、一般の聴講者約80名が来場し、多くの聴講者がシンポジウム終了後の意見交換会にも参加して情報交換を行いました。STI政策シンポジウムは、CSTIPSの社会連携活動の一環として、今後も定期的に関催される予定です。

CSTIPS提案の政策支援システム開発—JST-RISTEX公募課題に採択

科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター(RISTEX)が、「戦略的創造推進事業」の一環として平成23年度にスタートさせた公募型研究開発プログラム「科学技術イノベーション政策のための科学」に、CSTIPSが提案した「地域科学技術イノベーション政策を支援する事例ベース推論システムの開発」(研究代表者:永田晃也)が採択されました。

本課題が開発するシステムは、政策担当者が抱えている問題に類似した事例とその解決策を、過去の事例情報データベースから検索する推論エンジンを搭載した意思決定支援システムで、地域を活性化させるための有用な知識を広く地域間で共有することを可能にします。事例ベース推論は、医療診断、法的推論などの分野で実用化されてきた技術ですが、政策立案への応用は本課題が初の試みとなります。

研究期間は平成24年10月から3年間を予定しており、最終的には開発されたシステムをweb上でユーザー会員に提供することを目指します。

詳細については、以下のサイトを参照してください。

<http://www.ristex.jp/stipolicy/project/project08.html>

大学院共通教育科目「科学技術イノベーション政策専修コース」受講者募集

CSTIPS は、平成25年度より九州大学の大学院共通教育科目として「科学技術イノベーション政策専修コース」を開講します。

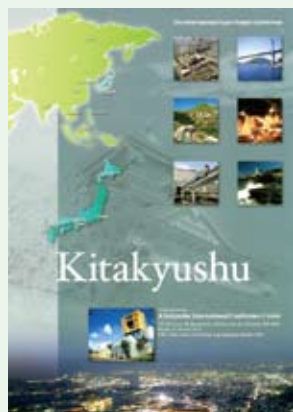
本コースは、①客観的な根拠に基づいて政策を立案・実行できる高度専門人材、②科学技術イノベーション政策のための科学を専門領域とする研究人材、及び③自らの専門領域と科学技術イノベーション政策をつなぐ人材の育成を目的としています。

カリキュラムは、政策過程や政策分析に関する基礎的知識を習得し、それらを政策立案に応用する実践的能力を養うコア科目群と、領域開拓拠点としてのCSTIPSのフォーカスである「東アジア」、「地域」、「環境」等に関連する固有科目群からなります。平成25年度には、コア科目5科目、固有科目4科目の計9科目が開講される予定です。

これらの科目は、九州大学の全大学院生が受講できるとともに、履修条件を満たす社会人も本学統合新領域学府の科目等履修生として受講することが可能です。また、本専修科目から4科目8単位以上を修得した受講者には、「科学技術イノベーション政策専修コース」修了認定証を授与します(修了認定証は学位ではありません)。

詳しくは履修案内を参照してください。

国際産業連関分析学会と国際カンファレンスを共催



CSTIPSは、本年7月8日から12日にかけて、国際産業連関分析学会(IIOA: International Input-Output Association)との共催により、北九州市において国際カンファレンスを開催します。このカンファレンスでは、"Toward New Horizons of Innovation, Environment, and Trade"をテーマに掲げ、経済発展を考える上で欠かすことができない3つの課題「技術革新、環境、貿易」に焦点を当て基調講演を実施し、各研究分科会を構成する予定です。

本カンファレンスには非学会員も参加できます(有料)。多くの方のご参加をお待ちしております。

詳しくは以下のサイトを参照してください。

<http://www.iioa.org/Conference/21st/>

CSTIPS スタッフ紹介

准教授 小林 俊哉

平成24年4月1日付でCSTIPSに着任いたしました准教授の小林俊哉です。科学技術政策分野と環境分野の調査研究に従事して今年で20年になります。広告会社、公益法人のシンクタンク研究員を経て、東京大学先端科学技術研究センター特任助教授、北陸先端科学技術大学院大学准教授、富山大学特命教授等の経歴を経てまいりました。本CSTIPSでは、次年度開講予定のコア科目群と固有科目群の開発に他メンバーと共に鋭意取り組みます。また、このたびJST-RISTEXからの委託事業である地域の科学技術イノベーション政策立案の支援ツール「事例ベース推論システム」の開発にも事業推進グループ・リーダーとして先頭に立って推進いたします。どうかご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。



CSTIPSは箱崎キャンパスの旧工学部本館の2階にあります

旧工学部本館(写真)は1928年11月23日に起工し、2年後の1930年11月20日に竣工した歴史的建造物です。1923年に焼失した工学部本館の跡地に再建されたものであり、RC造(ラーメン構造)、3階建、一部地階、塔屋、延坪3,315坪です。左右対称の外観は茶色のスクラッチタイルで覆われており箱崎キャンパスのシンボリックな建物です。

編集後記



本創刊号をお読み頂きまことにありがとうございました。本ニュースレターでは、今後CSTIPSの取り組みの速報以外にも、科学技術イノベーションに関わる全国、九州地域、隣接する東アジア地域のトピックスを広く取り上げていく所存です。この分野の国内外のキーパーソンへのインタビュー記事の掲載なども計画しております。また科学技術イノベーションに関心を有する産官学の多様な会員を擁する研究・技術計画学会九州・中国支部とも密接に連携して、その活動も報道していく所存です。

同時に「科学技術イノベーション政策の科学」の各事業など、CSTIPSの事業と並行した各種取り組みの報道も行います。

発行 九州大学 科学技術イノベーション政策教育研究センター

〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学箱崎キャンパス 旧工学部本館 2階
TEL : 092-642-2946 FAX : 092-642-2952 E-mail : office@sti.kyushu-u.ac.jp